

# 議会だより

## 第8回臨時会

10月13日(火)に第8回揖斐川町議会臨時会が開催され、次の1議案が可決されました。

●スクールバス購入契約の締結  
契約金額 1281万円

## 特別表彰受賞

清水政則議員が岐阜県町村議会議長会から自治功労者特別表彰を受賞しました。

特別表彰は、町村議会議員として25年以上在職し功労のあつた議員を表彰するものです。



## 視察研修

議長 坪井重憲

10月1日から3日まで視察研修を行いました。視察の目的は、

①発生が予想される東海・東南海地震等に対する防災対策

②「ぎふ清流国体」でカヌーとソフトボール競技の会場となる本町の体制づくり

を検討することで、新潟県長岡市(旧山古志村)・三条市・上越市を視察しました。

長岡市では、中越地震で甚大な被害を受けた旧山古志村を視察しました。

平成17年、長岡市に編入合併された旧山古志村は、平成16年10月23日に震度6強の中越地震に見舞われ、

3日前までに降った雨の影響もあり、各地で土石流や地滑りが起き、

道路が寸断され、村が孤立しました。このため、全村民に長岡市への避難

指示が出され、これが全面解除される平成19年4月まで仮設住宅で過

ごしました。現在は生活基盤のほとんどが復興され、全国的に有名なニ

シキゴイの養殖池も随所に見られました。

三条市と上越市では、開催中の新潟国体カヌー競技と少年女子ソフト

ボールの会場を実際の運営とあわせて視察しました。国体の会場地は両

市とも小中学校ごと、自治会ごとに育てられた花のプランターや応援の

寄せ書き旗が立ち並べられるなど、地域が一体となって国体を盛り上げ

ている熱意を感じました。

五年経ち希望に満ちる山古志は

錦鯉もて世界を駆ける

五十嵐川木の葉のように舞うカヌー

GOGOUPの声援にこたう

雨上がりグラウンド整備に流す汗

キラキラひかるトキめき国体

視察は、野原康義議員(健康福祉常任委員会委員長)と高橋元之議員

がセントジョージ市への派遣と重なり、両議員を除く16人で行いました。

研修後、常任委員会から現時点での揖斐川町における課題等が提出さ

れました。今後、関係機関と協議、検討することとしています。

## 〈防災対策について〉

総務文教常任委員長 高橋嘉明

地震や豪雨などの発生を防ぐことはできませんが、被害を少なくする

方策はあります。特に人的被害は最小限に抑えることが必要です。旧山

古志村では、地震が発生したその日のうちに全村避難が決定され、2日

後にはこれを完了しました。素早く的確な決断と行動力です。

山古志は4メートルを超える豪雪地帯でもあるため、これに耐える頑

丈な家が多かったことも幸いしました。個々が「耐震補強」を施していたのと同じような効果がありました。

独居高齢者など災害弱者といわれる人たちをはじめ、住民の安否確認

も迅速に行われました。地区ごとに昔から良好な隣近所つき合いが行わ

れていたため、イザというときに慌てることも見落とすこともありませんでした。揖斐川町でも、区を単位とした地域の対応力を今以上に備えておく必要性を感じました。

地滑りや土砂災害の対策としては、山林や農地が保水力を発揮できるように、適切に管理することが必要です。

説明を受けた山古志の青木支所長は、昔の「出稼ぎ」に例え、働き盛りには山古志を離れても定年後には再び戻って農地や山林を守っていく仕組み(40年スパンの出稼ぎ)づくりの必要性を訴えました。神社や墓石の修復を優先し、人々の心よりどころを求めたことがその現れであり、強い意志を感じました。まさに中山間地を抱える揖斐川町にも共通する問題で、検討が必要です。



## カヌー競技について

産業建設常任委員長 宗宮 哲哉

揖斐川町ではカヌー競技の会場として朝鳥公園付近の揖斐川が予定されています。

視察した三条市の会場は、コース設営に関し中州を造ったり、石積みで高低差をつけ急流箇所を設けたりと、国体用の工事が施されています。川岸から間近で選手を応援することができ、アナウンサーによる実況放送も行われ、選手と観衆の一体感が感じられました。大会運営用のテントや物販用のテントも数多く張られ、広いスペースが確保されました。駐車場は大型バスが出入りにくいなど、道幅に問題がありました。

競技に際しては、スラロームの関門ごとにボランティアの審判員が配置されています。審判員は大会以前に講習を受ける必要があるなど、スタッフの確保とともに下準備の重要性を感じました。

会場周辺には、小中学校や自治会ごとに応援メッセージを書いたノボリ旗が立ち並び、地域を挙げて国体を盛り上げている様子が伝わってきました。

揖斐川町でこの大会を開催するに当たっては、数々の問題をクリアする必要があります。コースの設営はもとより、多くの観衆を受け入れる会場づくり、駐車場の確保または輸送手段などです。全国各地から多くの選手や観衆が来町します。これを



温かく迎えるため、地域の皆さんの気運を高めることも重要な課題と感じました。

## ソフトボール競技について

健康福祉常任副委員長 森本文一

上越市のこの会場へは、道中に案内看板がほとんどなく、回り道などをしてようやく到着しました。バス駐車場からは約500メートル歩いて会場へ入りましたが、駐車場近辺の歩道にはゴミが捨てられていたり、手入れのされていない雑草が目につきました。道案内が不備な上、会場周辺の清掃が行き届いていない状態で、会場内には「歓迎」と書かれた旗が風に揺れていました。

揖斐川町においては、いびがわマラソンのノウハウを活かし、もてなしの心と美しいまちづくりで迎えたものです。

この日は、前日の大雨でグラウンド状態が悪く、試合開始時刻が繰り下げられたため、実際の運営は見る事ができませんでした。従来から少年野球場として使われている会場であるため、国体用に特別に設備されたのは仮設の応援スタンド程度です。車いすの方が観戦できるようにスロープを設け、「福祉席」を設置した一角がありました。本町では会場として健康広場が予定されていますが、このような細かい気配りはぜひ取り入れるべきです。

高校生を中心としたボランティアがグラウンドに溜まった雨水を雑巾で吸い取ったり、乾いた砂を入れたりして整備作業に取り組んでいました。地域が一体となって国体を成功させようとする姿勢は大いに参考になりました。



## 議会活動報告

10月

1日～3日

新潟国体等視察研修

5日 第7回議会全員協議会

5日 第10回議会運営委員会

13日 第8回臨時会

16日 福井県池田町議会との交流会

19日 揖斐郡3町議会合同研修会